

# 令和2年度 【西宮市】認知症地域支援推進員活動報告

【市町名】の認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：2名

2 認知症地域支援推進員の役割

(1) 認知症の正しい理解と支援方法等に関する周知・啓発

- ・認知症研修会、事例検討会の開催

(2) 認知症の人を支援する関係者との連携

- ・包括、医療機関、家族会、社会福祉協議会などとの連携

(3) 地域の実情に応じて認知症の人や家族を支援する事業の実施

- ・認知症カフェの立ち上げ・継続支援

- ・若年性認知症交流会『わかみや会』の開催

- ・若年性認知症の人と家族への個別支援

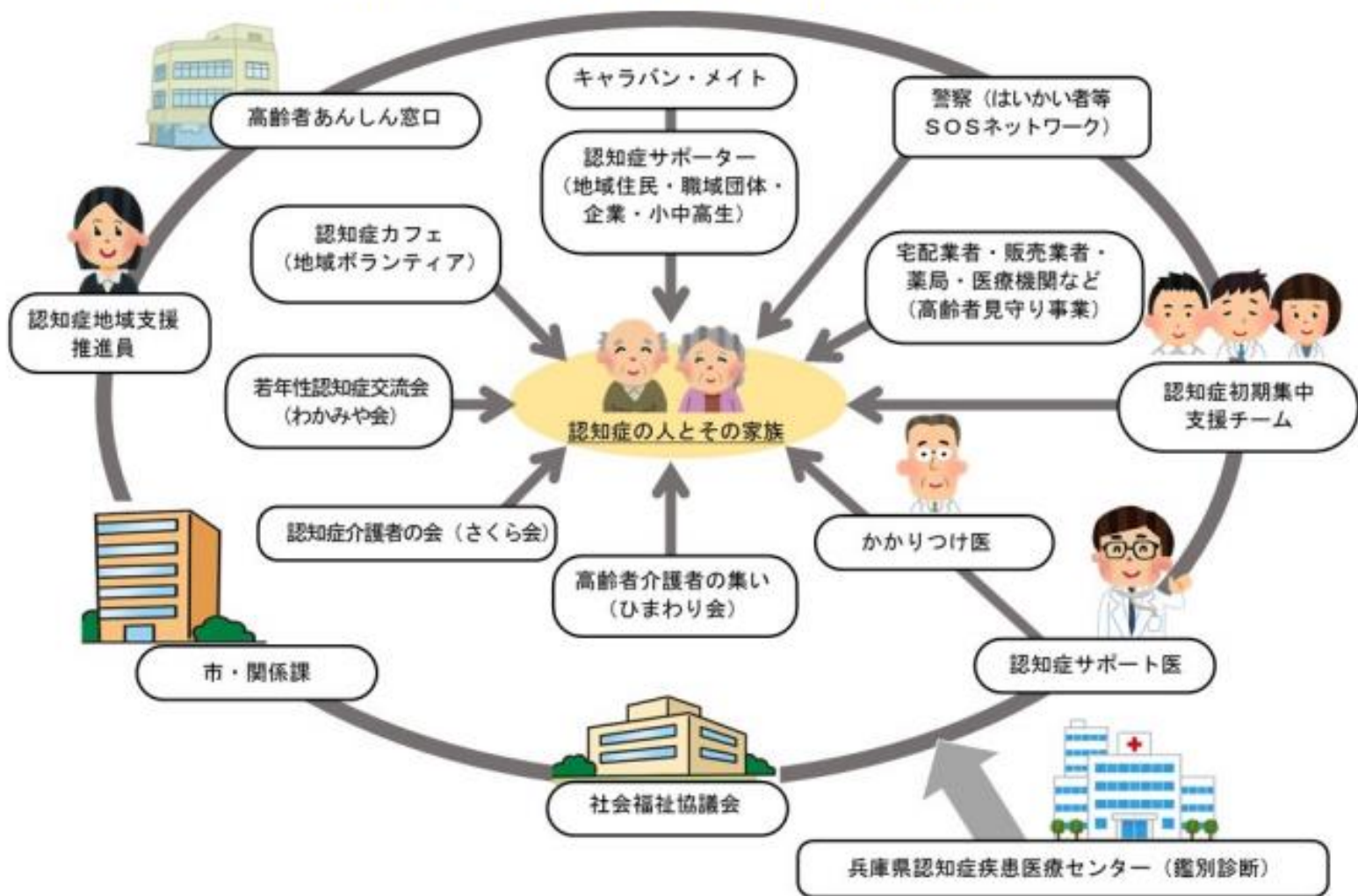
- ・認知症施策についての広報

報告者氏名：地域共生推進課 小山あすか

認知症地域支援推進員 後藤香織・齋藤環

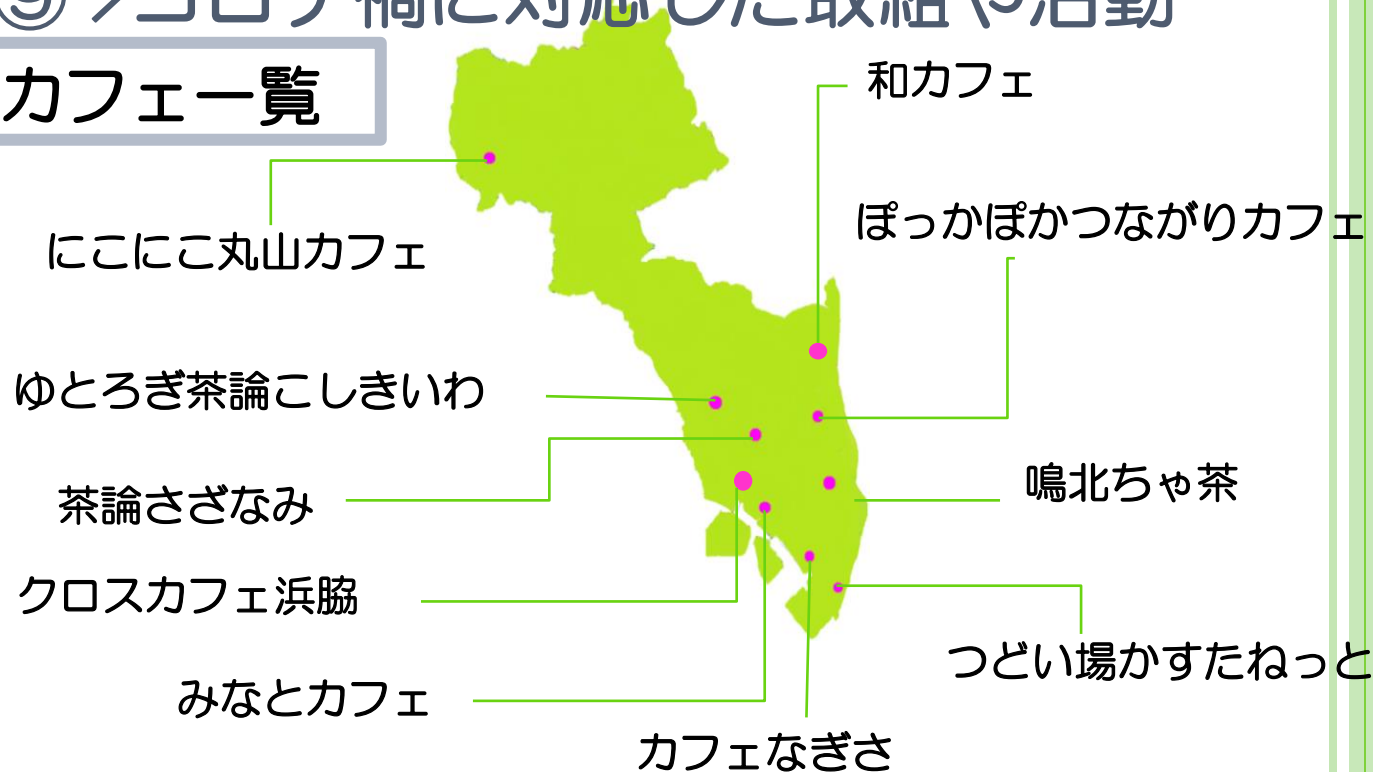
# 【市町名】 認知症施策全体図

## 【認知症の人とその家族を支える関係者・機関】



# 【西宮市】R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告 テーマ番号< ⑨ >コロナ禍に対応した取組や活動

## 西宮市の認知症カフェ一覧



## 令和2年度の認知症カフェの運営状況

つどい場かすたねっと	3後半～6月、 1後半～2月休止	カフェなぎさ	年度中休止
ゆとろぎ茶論こしきいわ	4～6月、1～3月休止	ぽっかぽかつながりカフェ	4～5月休止
みなとカフェ	～6月、11～3月休止	にこにこ丸山カフェ	年度中休止
茶論さざなみ	～9月、1～3月休止	和カフェ	年度中休止
鳴北ちゃ茶	年度中休止	クロスカフェ浜脇	開設延期

# 再開できた認知症カフェ ～ゆとろぎ茶論こしきいわの場合～

5月25日	緊急事態宣言解除
6月19日 ボランティア会議	<p>〈事前に専門職で対応策や方向性を検討しておく〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ボランティアから、マスクを外して会話ができるようになるまで待った方がいいとの意見も出る。</li><li>→それを待っているといつになるかわからないと伝え、感染対策を行いながらの再開を決める。</li><li>・感染対策として、お茶は個別の紙パックの物を準備し、お菓子の提供はしない。人数の制限を行い、参加者の連絡先の確認。マスクの着用を促すなどの注意事項を書いた案内を参加者に渡す。</li><li>→事前に担当包括の保健師と感染対策として検討していた内容をもとに、ボランティアとできることを詰めていく。</li><li>・お菓子も出せない、歌などのイベントもできない中、開催する意味はあるのか、などの意見も出る。</li><li>→<b>認知症カフェの役割はまずは居場所として、皆さんの顔が見られることを大切にし、少ない人数の参加でも、まずは場所を開けよう、</b>と伝える。</li></ul>
7月17日 カフェの再開	掲示板での広報に加え、いつも来られていた人には個別で電話案内をし、8人の参加がある。その後も、人数は少ないながらも一定数の参加があり、会話を楽しまれる。中には抗がん治療中の人の参加も。→ <b>リスクを理解しながらも、参加者にとっては大切な場所。</b>
1月 8日	二回目の緊急事態宣言のため、その後休止。

# カフェを再開して気づいたこと

## 参加者は…

→感染のリスクがありながらも、出かきたいと思える大切な居場所。

## ボランティアは…

→お茶やお菓子、イベントごとがなくても来たい人にとっては大切な居場所。

→たった一人でも来たいと思ってくれる人がいるなら、場所は開けておきたい。

→地域でどこにも行き場所がない人がいる。やっぱりこういう居場所は必要！

## 推進員は…

→地域の居場所として定着していたことを再確認できた。

→改めて、必要と感じてくれている人がいる事が再認識できた。

→ボランティアさんが、認知症カフェが地域の居場所としての役割を改めて実感してくれたことにより、意識が変わったのを感じられた。

# 場所が使えなくなった認知症カフェ ～クロスカフェ浜脇の場合～

令和2年3月	オープンの予定が中止（コロナ禍で開催場所の特養が立ち入り禁止！）
令和2年8月 第1回専門職会議	特養の状況確認、Voへアンケート実施、特養に代わる場所について
令和2年9月	Voへのアンケート実施と結果集計→1年かけて積み上げてきたボランティアのつながりや思いを無駄にしたくない→場所を探して開催したい！
令和2年11月 第2回専門職会議	Voアンケートの結果を踏まえての今後の進め方について
令和2年12月 第1回協議	コロナ前16名のVo中、11名のVoと専門職で協議 アンケート結果共有、Voの活動意向確認、場所は公民館に変更し開催する。認知症カフェの役割など含め様々な意見が出る。 第2回目協議は、2月24日にすると決定
令和3年1月 第3回専門職会議	緊急事態宣言延期の場合の協議について、12月の協議に不参加のVoとの情報共有、今後の運営について
令和3年2月	第2回協議が、緊急事態宣言延期のため、1か月後に延期
令和3年3月 第4回専門職会議	延期された第2回協議について（Vo代表が不参加→仕切り直し、公民館使用不可の場合） 広報協力の地域の人も心配している。
令和3年3月 第2回協議	Voの状況共有、Vo代表が参加できない状況の為、代表の決めなおし、公民館がワクチン接種会場になる可能性が出てきて、再度開催場所の検討！ Voの地域でのつながりの活用→Voが檀家である近所のお寺に打診→友引ならOK ★場所がない状況＝ピンチ→Voの結束強固、Voと地域のつながりから開催場所を探す→主体的に動いていく方向へ

# オープンに向かって協議して気づいたこと

1年間かけて、オープンの準備を進めてきたのに、開催場所の特養がコロナ禍で利用できず、利用のめども立たないという大ピンチ



## ① ボランティアの思いの強さを実感した

最初は、どうしたらいいの？と混乱やこの状況下で開催をどう判断したらいいか葛藤が生じたが、アンケートをとると、認知症カフェをこの地域で開催することや1年かけて開催に向けての準備を通してできたつながりを大事にしたいと多くのボランティアが思っていた。

## ② ボランティアの主体性が進んだ

協議を重ねボランティアより色々な意見が出され、特に個々のボランティアの意識が、自分たちで主体的にやっていたというものに変化していった。

## ③ ボランティアの地域での多様なつながりの力を実感した

## ④ 地域に見守られていた

広報に協力して下さった地域の人も心配してくれていた。

## ⑤ 後方支援する専門職同士、ボランティアと専門職の関係性が深まった。

# コロナ禍で気づいたこと～ピンチはチャンス～

- 開催できなくても、ハガキや電話でつながりを保てることに気づいたカフェがある。
- ボランティアと専門職との運営会議をオンラインでもできることに気づいたカフェがある。
- 休止を判断するのもボランティアが地域の特性や状況をしっかり理解しているからとすることに気づいた。
- 話合うことが多くなり、ボランティア同士のつながりが深まったカフェもある。
- コロナ禍の対応を話合う中で、今までの運営の振り返りや役割分担の見直しをしたカフェもある。

☞ピンチは、対応するために工夫や新しい発想をもたらし、今までの活動を見つめなおす機会になった。あらためて、認知症カフェの存在意義や役割を参加者、ボランティア、関わる専門職は認識し、地域の人にも意識するようになった。

最後に…全部のカフェの状況を把握できていない点は改善していきたい。コロナ禍で思うように開催できない認知症カフェだが、ボランティアがどんな形であれ、継続しようと努力している後押しを今後もしていきたい。